

計画の将来像（案）について

1. 将来像設定の意義について

「第4次豊能町総合計画」では、“人とみどりが輝くまち とよの”を将来像として掲げていましたが、この10年間によって豊能町を取り巻く環境も大きく変わっており、「豊能町総合まちづくり計画」では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「SDGs」なども取り入れた、新しい形の総合計画を策定していくことから、新たに実現させたい10年後の豊能町の将来像を掲げることが必要となっています。

この将来像は「豊能町総合まちづくり計画」の一番根幹となる考え方であり、これを基に、行政政策分野ごとの取り組みを位置づけ、各施策について定めていくこととなります。

将来像の考案にあたっては、住民対象のアンケート調査の結果、特に自由意見などであがっていた、“豊能町の魅力”と“今後取り組んでいくべきこと”、それから町長の所信表明やトップヒアリングによって、“町長の考える今後10年のまちづくりの方向性”、また庁内検証として、“前回計画から改善していかなければいけない点”などを洗い出し、それを基に複数の将来像案を庁内の総合まちづくり計画策定委員会にて審議したうえで、2つの将来像（案）に絞り込みました。

この2つの案について、委員の皆様からご意見をいただき、どちらか1つに絞り、計画の方向性を決めた上で、総合まちづくり計画の策定を進めていきます。

2. 計画の将来像（案）について

案 1) とよのにすむ、すみつづける、すきになる。

本町では、人口減少が進んでおり、このまま人口が減り続ければ、30 年後には 1 万人を下回ると考えられています。人口が減り続ければ、仕事をする人も、地域で活動する人も、将来を担う子どもたちも減っていくこととなり、結果としてまち全体の活力が失われてしまうことになります。

そのような将来にならないためにも、本町では「多くの人に豊能町の魅力や良さを知ってもらい、住んでもらう」ことと、「今住んでいる人、これから住む人に豊能町の魅力や良さをもっと知ってもらい、ずっと住み続けてもらう」ことの、2 つの取り組みが極めて重要であると、住民と行政のどちらもが考えています。

この、【すむ】【すみつづける】ためには、ただ豊能町の魅力や良さを発信するだけでなく、町内外の人に豊能町の魅力や良さを実際に感じてもらう、豊能町のことを「好きになってもらう」ことが大切です。

そのためには、各行政分野の取り組みを充実させ、住みやすいまちづくりを推進することをはじめとして、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくりを進めることや、住民同士の交流を促進すること、自分の働きたいと思える働き方を実現できる環境を作ることなど、幅広い取り組みを進めることによって、多くの人にとって【すきになる】ことができるまち、豊能町を目指します。

案 2) 豊かなみどりと人が織りなすまち とよの

豊能町の大きな魅力として、「みどり」と「人」があることは、前回計画策定時から上がっており、今回のアンケート調査や庁内検証などにおいても、魅力としてあがっていることから、豊能町にとって不変的な魅力であると考えられます。

また第 4 次豊能町総合計画の将来像としても、「人とみどりが輝くまち とよの」として、「みどり」と「人」が掲げられており、この将来像の考え方を引き継ぎつつ、より豊能町の魅力を表すことができる将来像を考えました。

豊能町は町の大部分に自然が広がっており、大阪府屈指の「みどり」が豊かなまちです。今後、社会が変わっていき、本町の在り方が変わっていくと、この「みどり」を大切にすることは、不変的であらねばなりません。

また、豊能町の人のはつながりや交流を大切にし、豊かな人間関係を築くことができるということが、住民の声としてあがっています。人口が減っていく中で、この「人」のつながりを大切にすることが、活気あるまちづくりのために欠かせなくなってくると考えられます。

このことから、豊能町の魅力を「豊かなみどりと人」とし、それらが合わさることで、自然と人が調和した、すばらしいまちを「織りなす」ことを目指します。